

1 開催日時

令和5年8月22日(月) 11:00~12:30

2 開催場所

北海道第2水産ビル 4階 4G会議室

3 出席委員

才原 慶道 部会長(国立大学法人北海道国立大学機構 小樽商科大学商学部教授)

伊藤 実枝子 委員(株式会社コンフィ 代表取締役)

大森 義行 委員(札幌大学 学長)

田中 慎也 委員(公認会計士)

成田 吉明 委員(医療法人溪仁会 理事長)

4 配付資料

資料1 中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績及び令和4年度業務実績報告書に係る項目別確認表

資料2-1 令和4年度北海道公立大学法人札幌医科大学の業務実績に関する評価結果の概要(案)

資料2-2 令和4年度北海道公立大学法人札幌医科大学の業務実績に関する評価結果(案)

資料3-1 北海道公立大学法人札幌医科大学の中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果の概要(案)

資料3-2 北海道公立大学法人札幌医科大学の中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果(案)

資料4-1 令和4年度財務諸表の概要(案)

資料4-2 令和4年度財務諸表

資料4-3 令和4年度北海道公立大学法人札幌医科大学の財務諸表に係る知事の承認に関する意見について

参考資料1 北海道地方独立行政法人評価基本方針

参考資料2 北海道公立大学法人札幌医科大学中期目標期間見込評価実施要領

参考資料3 北海道公立大学法人札幌医科大学年度評価実施要領

5 議事内容

議事(1) 令和4年度北海道公立大学法人札幌医科大学の業務実績に関する評価結果について

(才原部会長)

それでは早速議事に入ります。本日はそれぞれの議事ごとに、事務局から説明を受け、委員の皆様からのご意見等をいただきながら、審議を行っていきたいと考えております。

なお、本日の議事(1)から(3)の審議につきましては、公立大学部会の専決事項となっていますので、本日の部会において決定し、8月28日に開催予定の評価委員会に結果を報告することとなります。

それでは、最初の議事ですが、令和4年度北海道公立大学法人札幌医科大学の業務実績に関する評価結果について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

令和4年度の業務実績に関する評価結果について説明します。評価結果のとりまとめ案については、資料2-1、それから資料2-2でお示しさせていただいています。はじめに資料1の項目別確認表をご覧ください。

この資料は、法人から提出のあった業務実績報告書における自己点検・評価に対して、評価委員会としての評価を確認するための資料です。

資料1の1ページ目をご覧ください。令和4年度の年度計画に掲げられている60項目につきまして、中ほどに法人の自己点検・評価、右側に評価委員会の評価を記載しております。網掛けとなっています、「5(1)国際交流及び国際貢献」の評価項目番号38番につきましては、前回7月31日の部会において、ヒアリング及び意見交換を通じて検証を行った結果、法人の自己点検・評価と異なる評価結果となった項目でありまして、個別にご説明させていただきたいと思っております。

業務実績報告書の64ページをご覧ください。こちらにつきましては、国際交流の取組について、大学間交流協定校数の増2校以上、それから海外留学率10%以上の数値目標を、令和6年度までに達成する指標となっておりますが、昨年度の評価におきまして、取組の進捗は足踏み状態が続いている、との意見を付し、評価結果を「B」評価(十分に実施していない)としたところであります。令和4年度におきましても、新型コロナウイルス感染症の影響で、協定校数、海外留学率の指標は横ばいとなっており、令和3年度同様、評価については足踏み状態が続いている状況であり、さらなる改善の取組を進めることが重要と思われることから、評価結果を「B」評価(十分に実施していない)とさせていただくことを提案させていただくものです。

この結果、全部で60項目ありますが、「B」評価が自己点検・評価の4項目から1項目増え、5項目となります。

項目別確認表にお戻りいただき、表の一番右側に「項目別評価」がありますが、中期目標の区分に従い、9項目に区分して評価しています。なお、評価基準には、「V:特筆すべき進捗状況にある」や「I:重大な改善事項がある」という評価もありますが、今回の評価結果案としてはこれらに該当するものはないとしています。

評価結果の取りまとめ案につきましては、次にご覧いただく資料2-1、それから資料2-2で整理させていただいております。資料2-1につきましては、評価結果の概要案になりまして、資料2-2につきましては、評価結果の本体になります。報告書本体の資料2-2をご覧ください。

1 ページ目の最初に「1 業務実績の評価」、「2 評価方法」がありまして、評価の実施根拠、それから方法について簡潔に記載しており、「3 評価結果」以降に具体的な評価結果を記載しております。

「(1) 全体評価」の「①総括」についてですが、令和4年度の業務実施状況について検証を行い、「②業務の実施状況」のとおりであることを確認したところです。これを基に、先ほどご説明した中期目標の区分である9項目について評価を行ったところ、「IV」評価（順調に進んでいる）が4項目、「III」評価（おおむね順調に進んでいる）が1項目、「II」評価（やや遅れている）が4項目となっておりまして、総合的に勘案すると、令和4年度の業務実績は「おおむね順調に進んでいる」と、認められるとされているところです。

また、「進捗がやや遅れている項目や目標に達していない項目について、改善に取り組み、第3期中期目標期間での達成を目指していただきたい。」との文言を付記しています。

2 ページ目は、「②業務の実施状況」でありまして、法人から提出された業務実績報告書を基に、9項目のそれぞれの主な業務の実施状況を記載しています。なお、令和4年度につきましても、全期間にわたって新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けましたが、対応可能な手段を検討し代替策を講じまして、計画達成に向けて取組を推進した旨を記載しています。また、引き続き道からの要請に応じまして、感染症患者受入体制を整備し治療にあたるとともに、医療機関等に対する支援を行うなど、地域医療体制の構築・確保に積極的に取り組み、重要な役割を果たした旨を記載しております。

以下、「①教育」から「⑨その他業務運営」まで、9項目それぞれの主な業務の実施状況について、この後ご説明させていただきたいと思います。

「(2) 項目別評価」の主な内容を記載していますが、特にS評価（上回って実施している）となった取組や、B評価（十分に実施していない）となった取組について、触れることとしています。なお、「⑤国際交流及び国際貢献」の項目になりますが、先ほどの資料1の説明でご提案させていただいた意見を記載しております。

続いて、「(2) 項目別評価」の、それぞれ概略を説明させていただきます。

まず、4 ページ目の「①教育」でございます。全部で14項目ありますが、ともにA評価でありまして、項目全体としては「IV：順調に進んでいる」という評価になっております。主な取組については、下に記載のとおりです。

続いて、5 ページが「②研究」となっております。全5項目ありますが、ともにA評価でありまして、項目全体として「IV：順調に進んでいる」という評価になっております。主な取組については、四角で囲った記載のとおりになります。

続いて、同じく5 ページの「③附属病院」になります。こちらにつきましても、全8項目のうち、「A」評価は7項目、「B」評価は1項目でありまして、「A」評価以上が全体の9割に達しなかったため、項目全体として「II：やや遅れている」という評価になります。

なお、「B」評価となった項目については、次の6 ページをご覧ください。1 つ目のマルにあるとおり、「病院経営改善に向けた不断の取組」評価項目番号は27番になります。こちらにつきましても、高度医療の提供に伴う高額医薬品の使用量増加などによりまして、診療収入に対する医薬材料費の割合が、目標に達しなかったものになります。

続いて、同じく6 ページの「④社会貢献」になります。こちらにつきましても、全部で

10項目となりますが、「S」評価が2項目、「A」評価が7項目、「B」評価が1項目となっております。「A」評価以上が全体の9割に達しているため、項目全体としては「III おおむね順調に進んでいる」という評価になっています。なお、「S」評価の1つ目は、6ページのマルの1つ目「診療支援要請への対応」で、道との協定によりまして、入院調整業務や宿泊療養施設における相談医・オンコール対応などのため、医師等の派遣を行い、エクモ治療を含む最重症患者に対する集学的治療を行ったことは、特に評価できるとして

います。それから、「S」評価のもう1つ目は、7ページをご覧ください。マルの3つ目になりますが、「民間企業等との交流・情報発信」になりまして、国内最大のマッチングイベントに参加し、研究内容等についてPRを実施したほか、国立大学や同大学発ベンチャー企業との連携により、大型研究費の獲得につながったことは、特に評価できるとして

います。「B」評価が1項目ありましたが、6ページ下のマルの3つ目、「各種審議会委員等への就任、講師派遣等の依頼への協力」になります。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による依頼の減少により、オンラインを活用した就任依頼についても積極的に協力し、昨年度を上回る協力件数となりましたが、目標には達しなかったものになります。

それから、7ページの「**5**国際交流及び国際貢献」になります。全2項目のうち、「A」評価が1項目、「B」評価が1項目になりまして、「A」評価以上が全体の9割に達しなかったため、項目全体としては「II：やや遅れている」という評価になります。「B」評価につきましては、「海外大学等との国際交流の取組」でありまして、この項目については、先ほど資料1で説明させていただいたように、札医大の自己点検・評価結果と異なる評価でありまして、「取組の進捗は、足踏み状態が続いており、さらなる改善の取組を進めることが重要と思われることから、評価結果を「B」評価（十分に実施していない）とする」と整理しています。

続いて、8ページの「**6**業務運営及び効率化」ですが、全部で6項目ありますが、全て「A」評価でありまして、項目全体として「IV：順調に進んでいる」という評価になっています。主な取組については、四角に囲まれた記載のとおりになっています。

続いて、9ページの「**7**財務内容の改善」になります。全4項目のうち、「A」評価3項目、「B」評価1項目であり、「A」評価以上が全体の9割に達しなかったため、項目全体としては「II：やや遅れている」という評価になっています。なお、「B」評価につきましては、1つ目のマル「外部研究資金等の確保」でありまして、科学研究費補助金の申請数について、目標に達しなかったものになります。

続いて、同じく9ページの「**8**自己点検・評価及び情報の提供」になります。全2項目ですが、ともに「A」評価であり、項目全体として「IV：順調に進んでいる」という評価になっております。主な取組については、記載のとおりですが、「内部質保証の充実及び外部評価の導入」については、前回7月31日の部会におきまして、ヒアリングで札医大の考えを確認し、その後の意見交換を踏まえて、「病院機能評価においては、一部の項目に改善すべき点があり、認定留保となっていることから、今後の審査に向け引き続き取り組み、速やかに認定されることを期待する。」との意見を記載しています。

最後に、10ページ「9その他業務運営」になります。全9項目になりますが、「A」評価8項目、「B」評価1項目でありまして、「A」評価以上が全体の9割に達しなかったために、項目全体として「II：やや遅れている」という評価になっています。「B」評価については、同じく10ページの2つ目のマル「省エネルギーに対する取組」でありまして、エネルギー原単位の削減について、目標に達しなかったものになります。

11ページから12ページは、項目別詳細の「(1)総括表」でありまして、年度計画全60項目を列記し、法人の自己点検・評価と評価委員会の検証結果を一覧形式で整理したものになります。

さらに、13ページから19ページにつきましては、9項目ごとの「S」から「C」の数と、主な取組状況、評価委員会の評価、特記事項を整理したのになります。

20ページ以降については、評価の方法等を参考として、記載しています。

以上が、資料2-2の説明になります。

資料2-1については、この評価結果の概要版として作成したものでありまして、ただ今ご説明した資料2-2の全体評価及び項目別評価を抜粋した内容となっています。令和4年度業務実績に関する評価結果(案)についての説明は以上になります。

(才原部会長)

はい、ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、委員の皆様からご意見等ございますか。

<特段の発言なし>

(才原部会長)

それでは私から皆様方に2件ご意見をお伺いしたいと思います。

まず、1点目、資料2-2の11ページ総括表をご覧ください。項目番号38番になります。年度計画項目としては「海外大学等の国際交流の取組」ということで、こちらは自己点検評価が「A」であったところが、「B」に検証で引き下げるということでいかがでしょうか。

前回、ヒアリングの後に意見交換をさせていただいて、そこで大森委員から予算取りの話も出てきてましたが、その資料については追加の回答が皆様方に送られていると思いますが、そういったものを踏まえていかがでしょうか。

データで見ますと、資料1の63から64に数値目標が出ていて、令和6年度までに10%以上ということになっています。ご覧のとおり、1.6、1.6、1.6、1.8と若干は上がりましたが、どうでしょうか。昨年度は1.6で足踏みだったということで、評価委員会で評価を下げているという事情もあるので、そうなるとコロナ禍という未曾有事態ではあるのですが、やっぱりこのような数値として目標にあげていて、これほどしか達していないとなると、少し厳しいかなという感覚はあるのですが、やむを得ないのかと個人的には思っていますが、皆様方いかがでしょうか。

(成田委員)

善し悪しを言ってるわけではなく、できているかできていないかという評価なので、で

きていないことはできていないで、「B」評価が妥当だと思います。

(才原部会長)

ありがとうございます。他は、よろしいでしょうか。こちらについては、「A」を「B」に下げるといふ評価委員会の検証結果ということでもよろしいでしょうか。

<特段の発言なし>

(才原部会長)

もう1つ、資料2-2の12ページ、項目番号50番で内部質保証の充実及び外部評価の導入です。こちらは自己点検評価は「A」に対して、検証結果も「A」ということで、変わってはいないですが、病院機能評価で、昨年度、認定留保になっているところです。こちらについては、主に成田委員から、ヒアリングの際にも聞いていただいて、札幌医科大学からも回答があったということですが、ここについては病院機能評価の位置付け、項目は画像診断に関するものだったと思いますが、認定留保の意味合いというところの評価が難しい部分があるのかなと思います。

「A」評価のまま、事務局からの説明にもありましたが、資料2-2、9ページのしたところのな書きで一文を加えている提案となっています。

成田委員からご意見いただけたらと思います。

(成田委員)

難しいですね。病院機能評価の判断基準が、現実に即していない部分があって、厳しすぎるのではないかとということで、理解できる部分はたくさんあるのですが、この場合は、病院機能評価の判断基準を議論する場ではないと考えますので、評価基準に則って、改善しなければいけないという指摘を受けているという事実をもって、判断すべきと考えますと、やはり「A」にはならないのかなと考えます。

(才原部会長)

そうしますと、50番については、「B」評価（十分に実施していない）、達成度は9割未満に当たるのではないかとというのが成田委員のご意見と思います。

他の委員の皆さんはいかがでしょう。

資料1、年度評価については82ページに記載がありますが、指標や数値目標はないということになっています。年度計画では、「内部質保証方針等に基づき、各所属等において自己点検・評価を実施する。また、次期認証評価受審に向けて、自己点検・評価体制の整備を図る。附属病院においては、令和元年度の病院機能評価結果に基づく改善に引き続き取り組むとともに、改善審査を受審する。」となっております。

それに従って、その実施状況が右側に記載されております。その中で、病院機能評価は認定留保になっているということはどう位置付けるかということになります。

これは大きな問題だから、「A」とは言えず、「B」であるとするのも1つであります。

もう1つは、そうは言っても全体から見れば「A」であろうと。評価ですから、各委員

の主観は入ってくるものとは思いますが。

(大森委員)

内容がよくわかっていないので、病院評価については認定留保ということですが、その上を見ますと、教育プログラム等については色々な認定を取っているということが書いてあります。トータルとして何項目かあるうちの1つということであれば、どちらだろうと判断するのは難しいです。

病院機能評価をどのようにとらえるかというところによるので、専門家でないとわからない部分かと思います。

(伊藤委員)

私も同感です。専門家ではないので。

(田中委員)

主観的になってしまいますが、計画の中で、「附属病院においては、令和元年度の病院機能評価に基づく改善に引き続き取り組む」と明記されているので、この記載に対しては達成できていないと、ここだけ判断するとやはり「A」評価ではない、となるのかなと思います。

(才原部会長)

事務局の見解をお聞きしてもいいですか。

(事務局：成田局長)

難しいところかと思います。ここの項目としては2項目しかありません。2項目のうち1つが評価を下げると、「A」が1つ、「B」が1つとなりますと、資料2-2の12ページの項目別評価は2段階下がります。2段階下がるというのは今までないのかと思います。自己評価と評価委員会の評価にかなりの落差ができます。項目数が少ないので、こういう現象になってしまいますが、そういう見え方になるかと思います。

成田委員の専門的な知見から言いますと、非常にハードルが高いことを求められている一方で、示された病院機能評価に基づくと、その部分に関しては評価されていない、というご意見はごもっともと考えます。

そうしたことを踏まえた上で、評価の見え方がどうするのが一番良いのかというところが難しいところかと考えます。

(才原部会長)

資料2-2、1ページの「①総括」で、大文字ローマ数字で、「IV」が4つ、「III」が1つ、「II」が4つとなっています。病院機能評価の部分で、評価を下げると「IV」が「II」になり、「IV」が3つ、「III」が1つ、「II」が5つと言ったときに、概ね順調に進んでいると言えますか。

(事務局：窪田課長)

変わりません。年度計画の場合60項目で評価をしておりますが、その内訳でいくと、この1点を下げたとしても、90%以上が「A」評価になっていきますので、概ね順調に進んでいるという評価自体は変わりません。

(事務局：成田局長)

「IV」が3つ、「III」が1つ、「II」が5つとなりますと、見た目の話ですが、頑張っているというのが4つ、進んでいないというのが4つであれば同数とは印象が変わります。

(才原部会長)

「IV」が3つ、「III」が1つ、「II」が5つとなりますと、下振れしています。この評価が下がると、見込評価にも影響がありそうですね。

(大森委員)

年度評価を見ますと、3つの項目になっています。「自己点検・評価を実施する」、「認証評価に向けた自己点検・評価の体制を構築する」、それと「病院機能評価に対する改善審査を受審する」となっています。

そのうちの1つ目、2つ目は実施できています。3つ目のところをどう考えるか。言葉ではありますが、改善審査を受審するという事で、それを認定されなければならないというハードルにはなっていません。受審はして、合格はしなかったが、トライはしたということは言えます。3つのうち2つはできていて、1つはトライした、半分くらいかと考えた場合、「B」まで下げなくてもよいのではないか、という理由付けはできると思います。

(成田委員)

結論として、札幌医科大学附属病院が概ね順調に事業がなされているという結論に間違いはないと思っています。

最終的に、その落とし方ができれば、中間的なことは多少のテクニカルなことがあってもいいかと思えます。ですが、やはり何も言及しないということは良くないと考えており、示されたような、何らかのコメントは必要だと考えますが、それを指摘した上で、全体のバランスとして、概ね順調に進んでいるという文言に矛盾しないような中身であるような落とし方には賛成したいと思います。

(才原部会長)

この文言、なお書きを入れることで、評価委員会からのメッセージになると考えています。この後に議論しますが、見込評価があり、2年後に中期目標期間終了時の評価がございます。ここで書いておいて、今年度あるいは来年度、だめだったということであれば、最終評価を下げるという判断もあり得ると考えます。

現時点では、成田委員がおっしゃるように、取り組んだがダメという事実を追い求めた時に、評価の数字で反映するのか、評価を変えずに文言でけん制して、次の段階を待つと

ということもあるのかなと思います。成田委員、田中委員のご了解を得られるのであれば、今回は評価を変えずに文言での対応ということではいかがでしょうか。

(成田委員)

私はそれでいいです。結構です。

(田中委員)

私は文言だけ見て判断していたので、おっしゃるとおり「受審する」となっておりますので、そのとおりかと思います。

(才原部会長)

それでは、そのようにいたします。

資料2-2の総括表11、12のところ、最終的な項目別評価9項目について、評価委員会の結論も決定するということになります。

参考資料の3「年度評価実施要領」にもついでありますが、評価基準が「V」から「I」とありまして、「S」、「A」の割合を基準にしています。こちらは事務局の方で作成していただきました。

検証結果の「A」「B」を変えないということであれば、項目別評価もそのままになります。こちらでもこれでよろしいでしょうか。

<特段の発言なし>

(才原部会長)

ありがとうございます。それでは、令和4年度北海道公立大学法人札幌医科大学の業務実績に関する評価結果につきまして、案のとおりと決定し、評価委員会に報告したいと思います。これでよろしいでしょうか。

<「はい」「賛成です」との発言あり>

(才原部会長)

ありがとうございます。それではそのように決定いたします。なお、報告内容の最終確認については、部会長の私にご一任いただきたいと思います。

議事(2) 北海道公立大学法人札幌医科大学の中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果について
--

(才原部会長)

それでは、次の議事である、北海道公立大学法人札幌医科大学の中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果につきまして、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

こちらの評価結果については、資料3-1及び資料3-2で取りまとめているところです。また、先ほど年度評価の説明に使用しました、資料1の項目別確認表を再度ご覧ください。

資料1の2ページ目、中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に係る項目別確認表にあるのが、中期計画に掲げられている60項目について、中ほどに、法人の自己点検・評価と評価委員会評価を並べて記載しています。網掛けが二カ所ありまして、「5(1)国際交流及び国際貢献」及び「7(1)財務内容の改善」については、前回、7月31日の部会において、ヒアリング及び意見交換を行った結果、法人の自己点検・評価と異なる評価結果となった項目であり、個別にご説明させていただきます。

また業務実績報告書の63ページをご覧ください。先ほどの年度評価でも説明をしましたが、国際交流の取組についてになります。大学間交流協定校数の増2校以上、海外留学率10%以上との数値目標を、令和6年度までに達成することになってはいますが、取組の進捗のうち、特に海外留学率の進捗については、現時点では目標値に達していないとの意見がありまして、評価結果を「2」評価、中期計画を十分には実施できない見込みである、とさせていただきますことを提案させていただきます。

次に、74ページをご覧ください。外部資金等の確保の取組についてですが、科学研究費補助金の申請数を年平均323件以上とする指標となっているが、現時点では目標値に達していないとの意見を付し、評価結果を「2」評価、中期計画を十分には実施できない見込みである、とさせていただきますことを提案させていただきます。

この結果、全60項目のうち、「2」評価が自己点検・評価の2項目から2つ増え、4項目となります。項目別確認表にお戻りいただき、矢印の右側の部分ですが、中期目標31項目ごとの法人の自己点検・評価、右側に評価委員会の検証を記載の上、最終的な9項目の項目別評価を記載しています。

なお、評価基準では、「Ⅴ 中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある」と「Ⅰ 中期目標の達成のためには重大な改善事項がある」という評価もありますが、評価結果案としてはこれらに該当するものはないとしています。

評価結果の取りまとめ案については、資料3-1及び資料3-2で整理させていただいています。資料3-1は評価結果の概要案、資料3-2は評価結果の本体でありまして、本体である資料3-2をご覧ください。

1ページ目の最初に「1 業務実績の評価」、「2 評価方法」には評価の実施根拠と方法について記載しています。「3 評価結果」以降に具体的な内容を記載しています。

全体評価の総括については、中期目標期間の最後の事業年度の前々年度終了時点における業務実施状況について検証を行い、業務の実施状況のとおりであることを確認しました。

これを基に、先ほどご説明した中期目標の区分である9項目について評価を行ったところ、「Ⅱ」評価（やや遅れている）が4項目あるものの、「Ⅳ」評価（順調に進んでいる）が3項目、「Ⅲ」評価（おおむね順調に進んでいる）が2項目となるほか、新型コロナウイルス感染症の影響下において、入院調整業務やワクチン集団接種会場への医師等の派遣など、本道の地域医療体制の確保に向けた積極的な役割を果たしてきたことなどを総合的に勘案し、見込まれる業務実績としては「中期目標の達成に向けて概ね順調に進んでいる」

と、認められる、としています。

2 ページ目は、業務の実施状況になりまして、法人から提出された業務実績報告書を基に、9 項目それぞれの主な業務の実施状況を記載しています。冒頭には、「人間性豊かな医療人の育成」「地域医療への貢献」、「国際的・先端的な研究の推進」の基本理念の下、毎年度の事業の自己点検・評価結果を改善や充実に繋げながら、取組を展開した旨を記載しております。以下、「1教育」から「9その他業務運営」まで、それぞれの主な業務の実施状況について、このあとご説明させていただきます。

「(2) 項目別評価」の主な内容を記載していますが、中期計画の取組において、「5」評価（中期計画を上回って実施する見込みである）となった取組を含む、「iv」評価（中期目標を十分に実施する見込みである）となった取組や、「ii」評価（中期目標を十分に実施できない見込みである）となった取組について、触れることとしています。

なお、「5国際交流及び国際貢献」及び「7財務内容の改善」においては、先ほどの資料1の説明でご提案させていただいた意見を記載しています。

続いて、「(2) 項目別評価」ですが、それぞれ概略を説明させていただきます。なお、9 項目のうち、「II：中期目標の達成のためには遅れている」と評価された項目については、主な課題、改善事項等を付記することとしました。

4 ページの「1教育」をご覧ください。全4 項目のうち、「iv」評価が3 項目、「iii」評価が1 項目であり、「iv」評価の割合が全体の9 割に達しなかったため、項目全体としては「III：中期目標の達成に向けて概ね順調に進んでいる」という評価になっています。主な取組については、記載のとおりです。

続いて、5 ページの「2研究」をご覧ください。全2 項目ともに「iv」評価であり、項目全体として「IV：中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と評価しています。主な取組については、記載のとおりです。

続いて、同じく5 ページの「3附属病院」ですが、全3 項目のうち、「iv」評価が2 項目、「ii」評価が1 項目であり、「iii」評価以上の割合が全体の9 割に達しなかったため、項目全体として「II：中期目標の達成のためには遅れている」と評価しています。

なお、「ii」評価については6 ページ、1 つ目のマル、「病院経営改善に向けた不断の取組」であり、診療収入に対する医薬材料費の割合、病床利用率については、いずれも目標値に達していないとなっています。

7 ページ目の主な課題、改善事項等として、「医薬材料費の割合」については、病院経営の大きな課題の一つであり、今後、共同購入の活用や価格交渉の強化等に努めること、「病床利用率」については、病棟改修工事終了後には、全病床の利用が見込まれることから、それぞれ中期目標の達成に向け、取り組んでいただきたい旨を記載をしています。

続いて、7 ページの「4社会貢献」をご覧ください。全6 項目のうち、「iv」評価が5 項目、「ii」評価が1 項目であり、「iii」評価以上の割合が全体の9 割に達しなかったため、項目全体としては、「II：中期目標の達成のためには遅れている」と評価しています。

1 つ目のマルに「地域医療提供体制の確保に向けた取組」がありますが、目標を達成するための中期計画の取組において、道などと連携した医師派遣や、新型コロナウイルス感染症の影響下において、入院調整業務やワクチン集団接種会場への医師等の派遣など、本道の地域医療体制の確保に向けた積極的な役割を果たしたとしています。

また、9ページ、2つ目のマル、「研究成果の実用化と社会への還元と企業や地域研究機関等との連携強化」では、目標を達成するための中期計画の取組において、イベントへの出展・参加による研究成果のPRなどを通じ、大型外部資金の採択など、特に優れた成果を挙げたことについては特に評価できるとして、「5評価」とした項目を含んでいます。

なお、「ii」評価は、8ページの3つ目のマル、「地域の保健福祉の向上の取組」であり、政策立案等の審議会委員への就任や地域の健康づくりのための活動に対する講師等派遣について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による依頼件数の減少により、目標値に達しておらず、遅れている状況です。

9ページに、主な課題、改善事項等として、新型コロナウイルス感染症の影響による依頼の減少もあったが、審議会委員等への就任を依頼しやすい環境整備など、これまでの取組を踏まえた課題の整理を行い、中期目標の達成に向け、取り組んでいただきたい旨、記載をしています。

続いて、同じく9ページ、「**5**国際交流及び国際貢献」になります。「海外大学等との国際交流と国際水準の研究の推進」について、「ii」評価であり、「II：中期目標の達成のためには遅れている」と評価しています。この項目については、先ほど資料1で説明させていただいたように、札医大の中期計画の自己点検・評価結果と異なる評価であり、「取組の進捗のうち、特に海外留学率の進捗については、10%以上の目標に対し1.8%であり、現時点では目標値に達していないことから、「2」評価の、中期計画を十分には実施できない見込みである」としたこと、中期目標の自己点検・評価結果においても、「ii評価 中期目標を十分には実施できない見込みである」とし、評価結果を「II：中期目標の達成のためには遅れている」と整理しています。

10ページに、主な課題、改善事項等として、渡航制限の緩和以降、対面による国際交流が再開されていることから、新たな大学との大学間交流協定の締結に努めるとともに、海外留学率の向上を図るなど、中期目標の達成に向け、取り組んでいただきたい旨、記載をしています。

続いて、10ページの「**6**業務運営及び効率化」です。全3項目ともに「iv」評価であり、項目全体としても「IV：中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」と評価になっています。主な取組については、記載のとおりです。

続いて、11ページの「**7**財務内容の改善」になります。全3項目のうち、iv評価が2項目であり、「ii」評価が1項目になります。「iii」評価以上の割合が全体の9割に達しなかったため、項目全体として「II：中期目標の達成のためには遅れている」と評価しています。

なお、「ii」評価については、12ページ1つ目のマル、「外部研究資金の獲得などの自己収入の確保による財務基盤の強化」であり、科学研究費補助金の申請件数について、現時点では目標値に達していないとなっています。13ページに、主な課題、改善事項等として、今後、科学研究費の申請実績を教職員評価に反映させるなどの取組を予定しているとのことであり、目標の達成に向け、取り組んでいただきたい旨、記載をしています。

続いて、同じく13ページ、「**8**自己点検・評価及び情報の提供」になります。全2項目ともにiv評価であり、項目全体として「IV：中期目標の達成に向けて順調に進んでいる」という評価になっています。主な取組については、記載のとおりですが、1つ目のマル、

「P D C A サイクルを活用した自己点検・評価及び第三者評価の実施による法人の業務運営の改善」については、先ほどの年度評価結果の説明と同様、「病院機能評価においては、一部の項目に改善すべき点があり、認定留保となっていることから、今後の審査に向け引き続き取組、速やかに認定されることを期待する。」との意見を記載しています。

最後に、14ページ「**9**その他業務運営」があります。全7項目のうち、「iv」評価が5項目、「iii」評価が2項目であり、項目全体として「Ⅲ 中期目標の達成に向けて概ね順調に進んでいる」と評価しています。

16ページから17ページは、年度計画同様に「4 項目別詳細」の「(1) 総括表」として、中期目標31項目及び、これに対応する中期計画60項目の自己点検・評価と、評価委員会の検証結果を一覧表で整理したものです。

18ページから27ページは、「(2) 各項目」として、9項目ごとの評価の数と、主な取組状況、評価委員会の評価、特記事項を整理したものになります。

28ページをご覧ください。「5 主な課題、改善事項等」について記載していますが、先ほどご説明させていただいたとおり、9項目のうち、「Ⅱ：中期目標の達成のためには遅れている」と評価された項目、「**3**附属病院」、「**4**社会貢献」、「**5**国際交流及び国際貢献」、「**7**財務内容の改善」について、主な課題、改善事項等を記載しています。

同じく28ページ、「6 次期中期計画の策定に向けて」であります。第3期中期計画では、全ての項目に指標・数値目標を設定し、より客観的、定量的に自己点検・評価を実施してきたところでありますが、初年度から目標値に達しない項目も見受けられたため、次期中期計画の策定に当たっては、より適切な指標・数値目標を設定し、人間性豊かな医療人の育成や道民の皆様に対する医療サービスの向上に努めるとともに、国際的・先進的な研究を進め、最高レベルの医科大学を目指していただきたい、との意見を付しました。

29ページ以降については、参考資料として記載しています。

以上が、資料3-2の説明です。

先程説明したとおり、資料3-1については、資料3-2の概要版として作成したのものになります。説明は以上になります。

(才原部会長)

ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、委員の皆様からご意見等がございますか。

評価の仕組みが複雑だと思えます。成田委員がおそらく第2期中期目標期間終了時の評価をされていたかと思えますので、全体の枠組みをご承知かと思えますが、他の先生方は初めてだと思えます。なので、何をやっているのかを簡単に整理した方が良くないかと思えて、資料3-2の16ページ17ページの総括表をご覧ください。中期計画をご覧いただくと、項目番号が60あります。先程審議いただいた年度計画の60と内容的にほぼ対応しています。これについて、自己点検評価ということで、「1」から「5」の数字が入ってきています。それに対して右側の評価委員会意見の中期計画のところでもそれで良いかということになります。それについては、2点ほど引き下げをしていますので、それで良いかの確認になります。17ページの下の方で、中期計画ではなく、中期目標になると31になりまして、中期計画60を31に再編しているということです。これについての評価は中

期目標の右側、自己点検評価でローマ数字の小文字でついています。これについて、評価委員会の方で検証することになっていて、右側の評価委員会意見の枠の中の左側で同じようにローマ数字の小文字で記載されています。中期計画のところの算用数字を引き下げた関係で、中期目標のローマ数字小文字についても二カ所引き下げをしていますので、これで良いのかということになります。

最終的には評価委員会意見の右側、31項目の中期計画を9つの分野に分けています。9つの分野は先程の年度計画と同じになります。こちらの方はローマ数字の大文字で評価されている構造となっています。

早速ですが、16ページの一番下、国際交流及び国際貢献に関する目標、中期計画での項目番号だと38番になります。海外大学等との連携による国際交流の拡大に向けた取組ということで、自己点検評価は「3」になっているが、「2」に下がっているところです。先程、年度計画のところでも議論いただきました海外留学率の話なので、こちらについては良いのかなと考えています。

17ページの中期目標の「7 財務書内容の改善に関する目標」で中期計画の項目番号は「46 科学研究費補助金等の外部研究資金の確保」になります。これについては、前回のヒアリング後の意見交換で追加の質問ということで、申請率と第2期の中期目標期間を上回っているという話があったので具体的な数字を出していただくといった質問がありまして、それに対する回答については皆さんに送られていると思いますが、個人的な感想として、数値目標があるので、資料1の76ページをご覧ください。数値目標は年平均323件以上としたところ、令和元年度から「262、284、282、281」という推移ですから、参考資料2の中期計画の自己点検・評価基準で、「3」は「中期計画どおり実施しており、概ね所期の成果が見込まれる場合（達成度9割以上10割未満）」ということですが、数字的に見てそれは難しいのではないかと考えます。「2」の「中期計画を実施しているが、所期の成果が十分には見込まれない場合（達成度9割未満）」にならざるを得ないのかなと思います。

この2点、国際交流と科研費の関係を評価委員会の方で「3」から「2」に下げるということになります。これについてはいかがでしょうか。

<特段の発言なし>

(才原部会長)

では、そのように決めさせていただきます。

あと、もう一つについては資料3-2、16、17ページの総括表のところ、中期計画の項目番号50、内部質保証の充実及び外部評価の導入というところで、自己点検評価で「4」、評価委員会意見の中期計画も「4」で変わっていません。先程、ご審議いただいた年度計画と同じ問題で、資料3-2の13ページ「**8**自己点検・評価及び情報の提供」というところで、【主な取組と評価】になお書きで、「なお、病院機能評価においては、一部の項目に改善すべき点があり、認定留保となっていることから、今後の審査に向け引き続き取り組み、速やかに認定されることを期待する。」という文言を記載するというところで、ご確認いただきたいと思います。

また、16、17ページの総括表をご覧ください。海外留学率と科研費の話で、「3」から「2」に下げたことによって、16ページの中期目標の項目番号16番で自己点検評価としてiiiに対して、評価委員会意見としては「ii」に引き下げられることとなります。

同じように、17ページの中期目標20番、こちらも自己点検評価については「iii」ですが、科研費の「3」から「2」に下げたことによって、評価委員会意見も「ii」に引き下げているということになります。

それらを踏まえて、一番右側の項目別評価について、9の領域についてローマ数字の大文字で、「1教育」から「9その他業務運営」までの評価になっているということです。

その結果、資料3-2の1ページで「3 評価結果(1)全体評価 ①総括」の3行目、9項目について評価を行ったところ、「II」評価(中期目標の達成のためには遅れている)が4項目あるものの、「IV」評価(中期目標の達成に向けて順調に進んでいる)が3項目、「III」評価(中期目標の達成に向けて概ね進んでいる)が2項目になっています。特に評価できる点として、新型コロナウイルス感染症の影響下において、入院調整業務やワクチン集団接種会場への医師等の派遣等、本道の地域医療体制の確保に向け積極的な役割を果たしてきたことなどを総合的に勘案して、概ね順調に進んでいるという総括になっており、このようなかたちで良いかご意見をいただきたいと思います。

<特段の発言なし>

(才原部会長)

それでは、北海道公立大学法人札幌医科大学の中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果については、案のとおりと決定し、評価委員会に報告したいと思いますが、よろしいでしょうか。

<「はい」「賛成です」との発言あり>

(才原部会長)

それではそのように決定いたします。なお、報告内容の最終確認については、部会長の私にご一任いただきたいと思います。

議事(3) 令和4年度北海道公立大学法人札幌医科大学の財務諸表に係る知事の承認に関する意見について

(才原部会長)

それでは、次の議事である、「(3) 令和4年度北海道公立大学法人札幌医科大学の財務諸表に係る知事の承認に関する意見」について、事務局から説明願います。

(事務局)

それでは、財務諸表について説明いたします。資料4-1「令和4年度財務諸表の概要」をご覧ください。この資料は、資料4-2「令和4年度財務諸表」のポイントをまとめたものになります。単位は百万円で表記している関係で、合計金額と一致しない場合があります。

ます。また、括弧書きの数字は、前年度である令和3年度の金額となっています。

それでは、資料の右側「② 損益計算書」の表をご覧ください。表の左側に「経常費用」についての欄がありますが、教育研究費、診療経費、受託研究費、人件費、一般管理費等の経常費用は、合計393億400万円であり、前年度と比較して、12億7,000万円の増となっています。

前年度と比較すると、光熱水費の高騰や医薬品費の増に伴い、診療経費が10億3,100万円の増、欠員の補充や給与改定等に伴い、人件費が4億800万円の増が、主な増加要因に挙げられる。

次に、表の右側の「経常収益」の欄をご覧ください。運営費交付金収益、授業料、附属病院収益等の経常収益につきましては、合計で396億7,800万円で、前年度と比較して、5億800万円の増となっています。前年度と比較すると、附属病院収益については、患者数が増加しながらも、診療単価を向上させるなど、診療収入の確保を図った結果、7億5,800万円増加、運営費交付金収益については、既存棟改修工事による休床影響を補填するなどした結果、6億2,200万円の増加が、主な要因に挙げられています。

経常収益から経常費用を差し引いた、経常利益については、左側の経常費用の列の下から3段目、3億7,400万円の利益となっています。また、この経常利益から臨時損失（7百万円）と、臨時利益（百万円）の差額6百万円を引き、当期純利益は、3億6,900万円となっています。

併せて、令和4年度は、附属病院における人件費や大学の教育経費等に充てるため、前中期目標等期間繰越積立金、4億3,900万円を取り崩しているため、当期総利益は、8億800万円の利益となっています。

黒字決算となった要因としては、診療単価の向上や、特許に係る収入の増のほか、物価高騰の影響を受け、電気・ガス料金が大幅に上昇した管理経費に対する北海道からの補助金などによるものと考えています。

この当期総利益は、点線矢印でつながっている、資料左側の貸借対照表の「当期末処分利益」と一致しています。また、「④利益の処分に関する書類（案）」にあるとおり、当期総利益の処分については、現在、財政協議中であり、現金の裏付けのない利益5億4,600万円は積立金に、残りの2億6,200万円は目的積立金として整理する方向で進めています。

なお、令和4年度に改正となった「地方独立行政法人会計基準及び地方独立行政法人会計基準注解」により、「行政サービス実施コスト計算書」は廃止となったことから、今回より記載していません。

これらの財務諸表については、法人の監事及び会計監査人が実施した監査において、地方独立行政法人会計基準等に基づいて作成され、法人の財政状況などを適正に表示しているとの報告を受けています。

資料4-2については、7月31日の部会において、配付させていただいたものと同じ資料であり、ここでの説明は省略させていただきます。

次に、資料4-3をご覧ください。令和4年度の財務諸表に係る知事の承認に関する評価委員会の意見（案）について、これからご審議いただくが、ご承認をいただけたら、（2）に記載のとおり、公立大学部会としては、「意見なし」との結論に至ったとのこと

で、評価委員会に報告したいと考えています。説明は以上です。

(才原部会長)

ただいまの説明につきまして、委員の皆様からご意見等はございますか。

<特段の発言なし>

(才原部会長)

それでは、前回部会における札幌医科大学へのヒアリングや、ただいまの事務局からの説明を踏まえまして、札幌医科大学の財務諸表の承認に係る評価委員会の意見につきましては、「意見なし」ということでよろしいでしょうか。

<「はい」「賛成です」との発言あり>

(才原部会長)

それでは案のとおり決定し、評価委員会に報告することとします。

続いて、知事に提出する評価委員会の意見の文案ですが、資料4-3(2)評価委員会の意見(案)に記載しているとおりでよろしいでしょうか。

<「はい」「賛成です」との発言あり>

(才原部会長)

それでは、札幌医科大学の財務諸表の承認に係る評価委員会の意見につきましては、案のとおりとし、評価委員会に提出いたします。

最後に、全体を通して、何かございますか。

<特段の発言なし>

(才原部会長)

それでは、本日の議事については、全て終了しましたので、進行を事務局にお返しします。

(事務局)

ありがとうございました。

次回の評価委員会につきましては、第2回評価委員会の本委員会となります。札幌医科大学に関しては、本日決定した、令和4年度業務実績評価の結果、中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価の結果、財務諸表の承認に係る意見、に関して報告させていただきます。

そのほか、試験研究部会で決定する、道総研の令和4年度業務実績評価に関する意見、財務諸表の承認に係る意見、についてもご報告される予定となっています。

開催日時は、8月28日(月)午後3時からを予定していますが、詳細につきましては、

改めてお知らせいたします。お忙しいところ大変恐縮ですが、ご参加をよろしく願いいたします。

以上で、令和5年度第3回公立大学部会を終了させていただきます。ありがとうございました。